

人工知能学会第二回総会報告

昭和 62 年 6 月 30 日、午後 0 時 10 分より約 30 分の間、学習院大学記念会館正館において第二回人工知能学会通常総会が開催された。

出席者 1 009 名（うち委任状 881 名、会則 18 条による総会成立定数 305 名）。

会則に従って福村会長を議長として選出することが決議された後、以下の議案につき提案ならびに審議を行い、異義なく承認された。

第 1 号議案 昭和 61 年度事業報告

第 2 号議案 昭和 61 年度決算報告、監査報告

第 3 号議案 昭和 62 年度事業計画（案）

第 4 号議案 昭和 62 年度予算（案）

第 5 号議案 会則改正

第 6 号議案 昭和 62 年度役員構成

第 7 号議案 昭和 62 年度評議員構成

上記の議案の審議を終了した後、閉会にあたって福村会長より挨拶があった。

総会終了後、第 1 回全国大会発表論文の中から優秀論文の発表と表彰が行われた。

昭和 61 年度決算報告（大項目のみ）

収 入			
科 目	予算額	実算額	差 異
基本財産運用収入	900,000	0	▲900,000
入会金収入	4,100,000	3,474,000	▲626,000
会費収入	20,400,000	23,096,000	2,696,000
事業収入	13,500,000	4,385,000	▲9,115,000
雑収入	2,500,000	2,540,076	40,076
合 計	41,400,000	33,495,076	▲7,904,924

支 出			
科 目	予算額	実算額	差 異
設立費	2,000,000	1,034,566	▲965,434
管理費	12,000,000	8,794,754	▲3,205,246
事業費	27,600,000	13,043,350	▲14,556,650
固定資産取得支出	0	876,000	876,000
引当金繰入額	0	5,200,000	5,200,000
合 計	41,600,000	28,948,670	▲12,651,330
繰越収支差額	200,000	4,546,406	4,746,406

（庶務委員 小山照夫）

昭和 62 年度人工知能学会全国大会(第 1 回)報告

人工知能学会の第 1 回全国大会は、6 月 30 日から 7 月 2 日にかけて学習院大学記念会館で開催された。会期中(6 月 30 日)総会も開かれ、昭和 61 年度活動報告ならびに昭和 62 年度活動・予算案が決定された。

本全国大会は人工知能学会最初の全国的な催しでもあり、また情報処理、AI 等に関連する各種の学会、研究会が多く開かれているという昨今の状況から、十分な数の質の高い論文が集まるか、また多くの参加者が

得られるかと心配された。しかし、実際には発表論文 127 件、参加者 1 200 人を数え、盛大な催しとなった。

発表論文の内訳は、基礎・理論：26 件、知識表現：15 件、AI 言語・アーキテクチャ・研究開発環境：20 件、エキスパートシステム：25 件、自然言語：11 件、パターン理解：9 件、AI 応用：21 件である。AI 技術に対する各方面からの期待を反映してか、エキスパートシステムや AI 応用の件数が多いのが特徴的であ

る。一方、基礎や理論に関する発表も多かった。

大会では、特別行事として、会長記念講演、特別講演、パネル討論、大会チュートリアルが行われた。会長記念講演は、当学会会長、福村晃雄名古屋大学教授による「これからの日本の人工知能研究」で、約1時間にわたって行われた。日本における人工知能研究の歴史を振り返り、日本人と日本文化の特質を踏まえた上で今後どのようにAI研究を進めてゆくべきかという問題を投げかけたものであった。特別講演は、米国カーネギーメロン大学金出武雄教授により「これからのAIとロボティクス」と題して2時間にわたって行われた。カーネギーメロン大学を中心に米国における知能ロボット開発のプロジェクトを紹介し、知能ロボット実現に関わる種々の問題にはAIの重要課題が多く含まれており、ロボティクスこそAIの中心的テーマである、という主旨の講演であった。

大会の最後には、「人工知能の展望」というテーマでパネル討論が開かれた。パネル討論の司会およびパネラーは、野口正一(東北大学、司会)、大須賀節雄(東京大学)、上野晴樹(東京電機大学)、古川康一(ICOT)、森健一(東芝)、の各氏である。

本大会の特徴の一つに発表応募論文の中から優秀論文を選び大会当日に表彰するという試みが上げられる。発表論文は8000字程のものであるから、論文予稿の段階で十分その評価を行うことができる。今回は以下の6件が優秀論文に選ばれ表彰を受けた。

- 原尾政輝, 岩沼宏治(山形大学)
回路自動合成のための定理証明システム
- 佐藤理史, 長尾 真(京都大学)
接続行列を用いた荒い文法の推定法
- 石田 享(NTT 通研)
ファクト管理を強化したプロダクションシステ

ムとその応用

- 和田慎一, 古閑義幸(NEC)
動的に生成されるオブジェクトの記述と管理機構
- 相川 健, 岡村光善, 的場 司, 齊藤光男(東芝)
AIプロセッサのアーキテクチャ
- 岸 則政, 大河原勝, 石川雅夫, 金丸裕二, 堀内義夫(日産自動車)
自動車設計における人工知能技術の応用

大会のもう一つの特徴は、大会期間中にチュートリアル講演が催されたことである。チュートリアル講演のテーマおよび講師は以下のとおりである。

- 人工知能における論理と推論
有川 節夫 (九州大学)
- 知識表現
安西 祐一郎 (北海道大学)
- AI 言語
後藤 滋樹 (NTT 通研)
- 画像理解とその応用
白井 良明 (電総研)
- 自然言語処理－現状とその課題－
辻井 潤一 (京都大学)
- AI アーキテクチャ
雨宮 真人 (NTT通研)
- 知的 CAI の現状と問題点
大槻 説乎 (九州工業大学)
- 設計エキスパートシステム
長澤 勲 (九州大学)

なお、本チュートリアルには予定を越える参加申込があり、参加できない人が多数出た。このため、後日同じ内容で再びチュートリアルを開催することになった。

(全国大会プログラム委員会幹事 雨宮 真人)